

アナログからデジタルに変わった頃

志村 良知

40年前を思い出してみよう。

朝の新聞は、油臭く、読んだ後手が汚れた。

写真はレバーでフィルムを巻き上げながら撮り、最後に巻き戻して取り出し、写真屋で紙の写真にしてもらった。大金がかかったし、その間、何が写っているのかはわからなかった。

ちょっとした大型家具だったテレビは格好の物置台になった。

音楽を聴くのはデリケートな LP レコードで、『運命』では第二楽章が終わると裏返す必要があり、残り 30 秒くらいになると尻が落ち着かなかった。

高価なワープロは文書室に鎮座しており、社内報告書類は大抵手書きで、そのコピーを取る複写機はセット枚数だけガチャガチャ露光を繰り返した。

最初にデジタル化したのは音楽で、1982年に登場した CD はあっという間に LP レコードを駆逐した。『合唱』がそっくり入る演奏時間、取り扱いやすさ、低ノイズ、などの圧倒的優位点は、登場した当初から喧しかった音質批判を吹き飛ばした。

画像のデジタル編集は 1980 年代の新聞作成に始まった。印刷原版がデジタル出力され、活字印刷からオフセット印刷となった。中央でコア編集して支局にデータで送り、支局で再編集し印刷するサテライト方式が確立、手が汚れない新聞が素早く届くようになった。画像編集はオフィスや個人用にも普及していった。

オフィス用複写機のデジタル 1 号機は 1987 年。原始的だった機械は進化を繰り返し、現代ではカラー複合機としてオフィスの紙印刷を引き受けている。

デジタルカメラは 1995 年に発売され、約 10 年でフィルムカメラを駆逐し、化学工業製品の清華と言われた銀塩写真フィルムを滅ぼした。液晶テレビは 2000 年頃登場し、大型家具のブラウン管テレビは約 5 年で電気器具店から姿を消した。

電話機がまだダイヤル式だった 1973 年に登場した民生用デジタルファクシミリは、文書をデジタル信号化して一般電話回線で送り、受信側で文書に戻して紙に印刷するという IT 時代の嚆矢だった。そのファクシミリが時代遅れの代名詞にされて久しい。